The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	人文学研究者必見！研究データ管理ことはじめ ：OUKAで始めるIIIF画像の公開と利活用
Author(s)	吉賀, 夏子; 田畑, 智司; 甲斐, 尚人 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97757
rights	This article is licensed under a Creative Commons Attribution-ShareAlike 4.0 International License.
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

OSAKA UNIVERSITY

グローバル日本学教育研究拠点「拠点形成プロジェクト」

ー人文科学分野向け研究データ管理を促進するデジタル・ヒューマニティーズ学習教材開発ー

人文学研究者必見！研究データ管理ことはじめ
--- OUKAで始めるIIIF画像の公開と利活用 ---

1. 本教材の目的

（問い）人文学研究にはデータ管理や共有が必要なのだろうか？

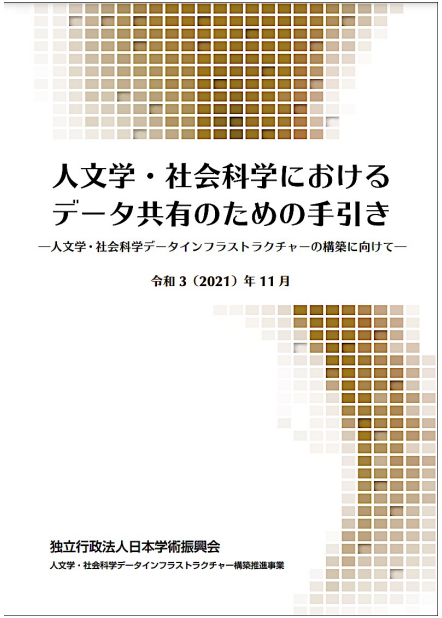
- 個人の感性や地道で長期的な調査の積み重ねが大事であり、データを共有することには無理があるのでは…？
- 実際に人文学由来の研究データをどのように管理したり、公開したりすればいいのかよくわからない…

（答え）人文学研究を活性化させる素地になるので必要

- 自身の研究の発展に寄与
- アウトリーチ活動や学生指導などを活性化

OSAKA UNIVERSITY

「人文学・社会科学におけるデータ共有のための手引き」
独立行政法人日本学術振興会（2021）
https://www.jsps.go.jp/j-di/data/guide/tebiki_p.pdf



【人文学向けコラム 1（人文学における
データ共有の意義）】p.4 より

1. 研究資料の整理で気づきを高める
2. 誰でも再現できる透明性の高い研究資料を長期的に残せる
3. 二次分析・二次利用で研究発展につながる

世界的なオープンサイエンス推進の機運の高まり

オープンサイエンス

研究データ共有を可能な限り実践する活動

- 理念上：国際共同研究や一般市民とのコラボレーションによる研究活動
- 行政上：国費による社会への研究成果還元、公正な研究費の運用、研究過程の透明化、オープンアクセス

[参考]国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター
https://rcos.nii.ac.jp/document/openscience/

個人による持続的なオープンサイエンス活動は困難

OSAKA UNIVERSITY

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業

NII

OSAKA UNIVERSITY

研究データ基盤の機能実装

研究データ基盤高度化チーム　NII リーダ機関

NII Research Data Cloudを
7つの側面から機能拡張

活用　コード付帯機能
データ・プログラム・解析環境のパッケージ化と流通機能を提供し、研究成果の再現性を飛躍的に向上

信頼　データプロビナンス機能
データの来歴情報の管理から利用状況を把握でき、データ公開へのインセンティブモデルを提供

蓄積　セキュア蓄積環境
専用HWと高度な暗号化技術による超鉄壁ストレージを提供し、データの共有と保護を両立

管理　データガバナンス機能
計画に基づきデータ管理等を機械的に支援し、DMPをプロジェクト管理に不可欠な仕組みへと変革

流通　キュレーション機能
専門的なキュレーションを実践できるエコシステムを構築し、データ再利用の促進に寄与

保護　秘匿解析機能
秘密計算技術で機微な情報も安心して解析できる環境の提供で、新しいデータ駆動型研究の世界を開拓

育成　人材育成基盤
RDMに必要なスキルを学ぶ環境を提供し、全ての研究者を新しい科学の実践者へと育成

基盤の活用に係る環境整備

プラットフォーム連携チーム

理化学研究所
リーダ機関

- 機関内サービス等とNII RDCの連携機能の整理と設計
- 計測機器等からの大量データを効果的に管理するための要件整理と機能開発
- 管理対象となるメタデータの設計と実証
- 関連する高度化機能との仕様調整と共同開発

融合・活用開拓チーム

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO
リーダ機関

- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に発展する取り組みを精査
- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に関する具体的なユースケースを創出
- ユースケースをまとめたツールキットの作成とそれを用いた広報活動

ルール・ガイドライン整備チーム

名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY
リーダ機関

- 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルールの設計
- 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- 学内整備のための事例形成

人材育成チーム

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY
リーダ機関

- 人材育成を主とした研究データ管理体制の構築を推し進める学内組織構築の事例形成
- 研究データ管理人材に求められる標準スキルに関する検討
- 研究データ管理人材育成のためのカリキュラムの作成、オンライン学習コースの整備

中核機関群の代表からなる運営委員会が全体を統括し研究データエコシステムの全国展開に向けて共同実施機関を随時拡大

研究データエコシステム構築事業運営委員会事務局「事業の詳細」
https://www.nii.ac.jp/creded/project.html

「デジタルヒューマニティーズ」による人文学のオープンサイエンス化推進に向けて

大阪大学研究データポリシー（2023年3月）策定
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/hclg46

課題：人文学系の研究データの公開と管理の基礎、実践手法およびその効果を具体的に学ぶ機会は少ない

デジタル・ヒューマニティーズ（Digital Humanities）

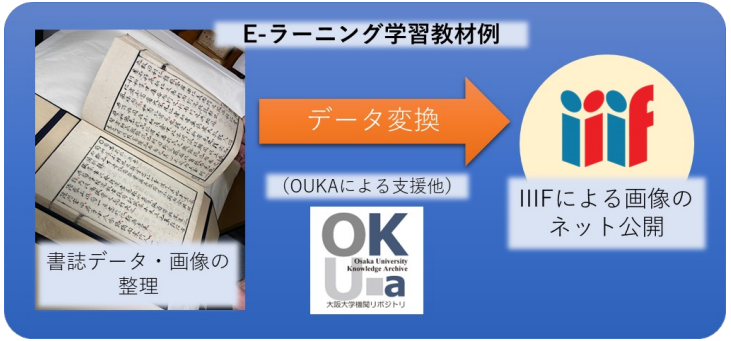
主に情報技術で人文学研究を支援する学際分野
人文学研究の過程に一定の透明性を与え、データ共有の可能性を探る手法を考える

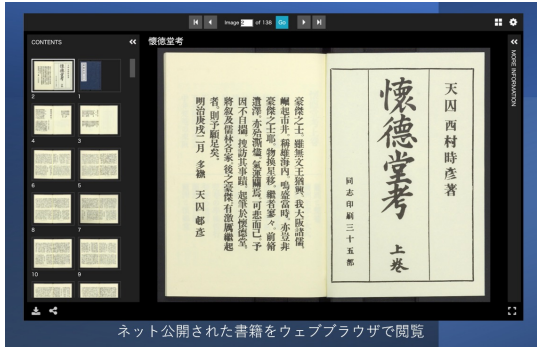
OSAKA UNIVERSITY

研究成果の管理と公開、特に画像について

IIIF（International Image Interoperability Framework）https://iiif.io/

- 貴重書等の文化財原本画像をWeb公開し、利活用を促す国際的な画像相互運用のための枠組み





ネット公開された書籍をウェブブラウザで閲覧

OSAKA UNIVERSITY

大阪大学学術情報庫 OUKA

大阪大学の機関リポジトリ

- 本学の研究教育成果発信のためのプラットフォーム
- 本学の教職員（元構成員を含む）は誰でも研究成果を登録可能
- 登録した研究成果は永久的に保存・公開
- 費用負担の必要なし

■ 登録可能なコンテンツ

- 学術雑誌論文
- 会議発表論文
- 博士論文
- 紀要論文
- 研究成果報告書
- 図書、会議プレゼン資料、教材
- その他（論文のエビデンスデータ等）

■ 登録サポート

- 紀要や本学関連学会誌の電子化の支援
- 出版社等の著作権ポリシーの調査
- 永続的識別子（DOI）の付与

OUKAトップページ
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

OSAKA UNIVERSITY

本教材の構成

1. 本教材の目的
2. 研究データの管理
3. IIIF画像とは何か
4. IIIF画像の基本的な使い方
5. IIIF画像の可能性
6. IIIF対応画像の材料と作り方@OUKA
7. まとめ

(読み)トリプルアイエフ

OSAKA UNIVERSITY

研究データ管理基礎編

CLE 授業支援システム
Collaboration and Learning Environment

lc-2023-0021 FD
「オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶ」

OUKAちゃん